

ウシ繁殖セミナー

「牛の繁殖管理の将来展望

—健康な産子を得るために、現場に繋がる研究のトレンド—

【開催趣旨】本セミナーは、6月22日に開催される「ウシの繁殖に関するプレシンポジウム」（裏面に案内）に先立ち、帯広畜産大学の真方先生、宮崎大学の北原先生を招き、「繁殖障害の理解と胚移植の活用」、「安心・安全な分娩管理」をキーワードに、生産現場で繁殖に関わる実務者へ、現場を見据えた研究活動や学術情報をお知らせするものです。また、大学で教育や研究を行っている講師、座長の先生方に加え、臨床獣医師、授精・移植師を壇上に招き、フロアの参加者からの様々な質問や情報提供を受けて、参加者全員にとって有意義なディスカッションを行うパネルディスカッションも設けます。

いろいろな意見や情報を受け取ることのできる、**ワクワクする**セミナーとなると信じています。ぜひ、皆さま、ご参加ください。

ウシ繁殖セミナー

「牛の繁殖管理の将来展望

—健康な産子を得るために、現場に繋がる研究のトレンド—

ウシ繁殖セミナーは無料です。

※事前登録は必要ありません。

日時：**2026年6月21日** 13:00~17:00

会場：とかちプラザ レインボーホール・北海道帯広市（裏面に地図掲載）

主催：NOSAI 北海道

共催：第20回国際動物繁殖学会（20th ICAR 2026 in Obihiro）

後援：十勝獣医師会、十勝管内家畜人工授精師協会



プログラム

13:00 開会挨拶

大澤 健司（宮崎大学）

言語：**すべて日本語**

13:05-14:25 「牛の繁殖成績を改善するために：繁殖障害の理解と胚移植の活用」

講師：真方 文絵（帯広畜産大学） 座長：松井 基純（帯広畜産大学）

牛の繁殖成績が伸びない—その背景には何があるのでしょうか。

本セミナーでは、前半では、炎症性子宮疾患や負のエネルギーバランスといった病態に着目し視床下部-下垂体-卵巣軸の生理とその破綻から、卵巣機能障害の発生機序を整理します。「なぜ発情が来ないのか」「なぜ受胎しないのか」という、日常診療で直面する疑問を内分泌学的理解に基づいて読み解きます。後半では、胚移植、とくにOPU-IVP技術に焦点を当て、受胎率向上を可能にする最新技術を紹介します。

「病態を科学的に捉えるアプローチ」と「技術で突破するアプローチ」、2つの戦略を持ち帰り明日からの繁殖診療に活かしていただくことを目指します。



14:40-16:00 「牛の安全・安心な分娩管理のために：分娩のメカニズムと異常の早期検知」

講師：北原 豪（宮崎大学） 座長：大澤 健司（宮崎大学）

牛の分娩は「胎子が娩出される」だけで本当に十分でしょうか。

母子ともに健全な分娩を実現することこそが、次に繋がる繁殖管理の目標です。しかしその裏側にある分娩の生理メカニズムや、異常をいち早く捉える指標は、いまだ十分に解明されていません。本講演では、牛の分娩に関する最新の基礎知見を整理するとともに、異常の早期検知に向けた研究の最前線を紹介します。

「なぜ分娩は起こるのか」「どうすれば異常を見逃さないのか」—現場に活かせるヒントをお届けします。



16:00-17:00 パネルディスカッション

「生産現場と研究のそれぞれの課題と取り組み：繁殖改善のためにどう立ち向かうのか？」

大澤健司、松井基純、北原 豪、真方文絵、
上野大作（NOSAI北海道 獣医療研修センター）
荒木 真（とかち ET LABO）

気になることは
何でも聞けるよ!!

ウシ繁殖セミナー会場

とかちプラザ（右図の赤枠）

帯広市西4条南13丁目1

地下駐車場（80台）有

***先着順であり、また、セミナー関係者以外の利用者もいることから、満車となる可能性があります。その際は一般の駐車場をご利用ください。**



第20回国際動物繁殖学会 (20th ICAR 2026 in Obihiro) プレシンポジウム

International Congress on Animal Reproduction (ICAR) は非営利の国際組織であり、1948年に動物繁殖と人工授精に関する第1回の国際研究集会が開催され、その後、動物(家畜、野生動物、伴侶動物等)の繁殖学や生殖工学全般に加え、生理学・病理学を含め、最新の情報を扱う集会として4年毎に世界各地で開催されています。第20回の集会在、2026年6月22日~26日に帯広にて開催されます。

日本有数の畜産地域で開催されることから、畜産現場で繁殖に関わる技術者、特に次世代に向けての情報発信を目的に、ウシの繁殖に関するプレシンポジウムが開催されます。(同時刻にウマ繁殖プレシンポジウムも開催) プレシンポジウムでは、日本国内の技術者の方々に参加しやすいよう、日本語対応を予定しています。日々の業務に活用できる国際レベルの最新情報を得る良い機会となりますので、ご参加お待ちしております。

第20回国際動物繁殖学会 (20th ICAR 2026 in Obihiro) プレシンポジウム (ウシ)

日時: **2026年6月22日** 13:00~16:30

会場: 帯広市民文化ホール (大ホール) 北海道帯広市 (裏面に地図掲載)

シンポジウムタイトル

「乳牛への肉牛受精卵移植」

- ウシの繁殖に関する研究と技術進歩が畜産産業に与える影響

"Beef on Dairy" - Impact of Research and Technological Advances in Animal Reproduction on the Cattle Industry

座長 大澤健司 (宮崎大学), 的場理子 (独立行政法人・家畜改良センター)



プログラム

世界における「牛肉と酪農」技術と市場の成長 - 課題と展望

アラン・ケリー (ユニバーシティ・カレッジ・ダブリン、アイルランド)

Growing 'Beef-on Dairy' technology and market in the world-challenges and prospects

Alan Kelly (University College Dublin, Ireland)

受精卵移植と繁殖技術: 現状と将来

パトリック・ロナーガン (ユニバーシティ・カレッジ・ダブリン、アイルランド)

Embryo transfer and assisted reproductive technology: present and future

Patrick Lonergan (University College Dublin, Ireland)

繁殖用雌ウシを必要としない未来に向けて

坂口謙一郎 (岐阜大学、日本)

Towards a future where breeding cows are no longer needed

Kenichiro Sakaguchi (Gifu University, Japan)

「日本黒毛“和牛”受精卵の乳牛への移植: Wagyu on Dairy」の現状と展望

阪谷美樹 (農研機構、日本)

'Japanese Black cattle, "Wagyu" -on-dairy' - Current situation and outlook

Miki Sakatani (NARO, Japan)

パネルディスカッション

【開催趣旨】

本プレシンポでは、「乳牛への肉牛受精卵移植」をキーワードとして、「牛肉と乳業」の概要(グローバルな視点から見た牛肉産業の展望)、これに関連するART(牛産業における生殖補助技術)の最新の研究動向、そして黒毛和種牛の品種改良の現状と展望に関する話題を提供します。

このテーマに関して既に関わっているベテランや中堅の関係者はもとより、これから関わろうとしている、あるいはまだよく分からないが何となく興味があるという若い世代の方々にも是非参加していただきたいと考えています。研究者間だけで議論するのではなく、繁殖の研究と知見から導かれる、今後の牛の産業の発展に貢献できるようなアイデアや技術革新を、生産現場に関わる関係者と共有し、次世代の人々にメッセージを伝えることが本プレシンポの狙いです。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

言語: 英語で講演

***日本語字幕表示**

プレシンポジウム案内

日本語



English



牛プレシンポジウムは**有料**(5000円)です。

申し込み、参加費のお支払いは以下からお願いいたします。

牛プレシンポジウム参加申し込み

<https://buy.stripe.com/bJe14offNcOV3bsfNa67S01> (右のQRコード)



※当日同じ建物で馬プレシンポジウムも同じ時間帯で開催しています。牛プレシンポジウムにご登録いただければ、馬プレシンポジウムにも参加可能です。**両方への登録は不要です。**

誤って二重登録されませんよう、十分ご注意ください。

※**当日の受付は一切行っておりません。必ず事前に参加費のお支払いを完了してください。**締切後の受付はできませんので、十分ご注意ください。登録締切は**2026年6月12日(金)**です。